【早見表】環境負荷低減事業活動として求められる事業活動の内容（耕種農業部門）

| 品目 | | 品種 | 作型等 | 根拠となる計画、指針 | | |

| | 品目 | 品種 | 作型等 | 熊本県導入指針（持続性の高い農業生産方式の導入に関する指針）土づくり：堆肥等有機質資材施用技術 | 堆肥等の投入 稲ワラ・麦稈の鋤込み | 緑肥作物の鋤込み 緑肥作物利用技術 | 草生利用有機物還元 | 減化学肥料：局所施肥技術 | 肥効調節型肥料施用技術 | 有機質肥料施用技術 | 地域未利用資源の利活用促進：化学肥料に家畜ふん堆肥等を混ぜ合わせた指定混合肥料施用技術 | 下水汚泥・有害鳥獣などの地域未利用資源を活用した肥料施用技術 | 野草堆肥等の地域資源の利活用 | スマート農業等の先端技術導入による化学肥料削減 | 県基本計画に記載する技術 | 熊本県導入指針（持続性の高い農業生産方式の導入に関する指針）減農薬：温湯種子消毒技術 | 機械（物理的）除草技術 | 除草用動物利用技術 | 生物農薬（天敵）利用技術 | 対抗植物利用技術 | 抵抗性品種栽培・台木利用技術 | 抵抗性品種栽培 | 台木利用技術 | 天然物質由来農薬利用技術 | 土壌還元消毒技術 | 熱利用土壌消毒技術 | 太陽熱・蒸気土壌消毒技術 | 熱水・蒸気土壌消毒技術 | 光利用技術：反射資材利用技術 | 色彩粘着トラップ技術 | 黄色蛍光灯利用技術 | 紫外線除去フィルム利用技術 | 被覆栽培技術：雨よけ栽培技術 | トンネル栽培技術 | 防虫ネット利用技術 | 袋かけ栽培技術 | フェロモン剤利用技術 | マルチ栽培技術 | スマート農業等の先端技術導入による農薬削減 | 県基本計画に記載する技術：温室効果ガス削減：省エネ施設・機械等の導入：内張・外張の多層化、被覆資材利用、自動環境制御装置活用 | 省エネ施設・機械やヒートポンプ等の導入 | 加温に頼らない作型や品種への転換等新たな栽培方法等の導入：加温期間を短縮する作型や品種の転換、局所加温技術導入 | 水田での中干し期間延長や秋耕の実施 | 不耕起栽培 | 生分解性マルチの利用 | 有機物施用による土壌炭素貯留：農地へのバイオ炭施用、緑肥、堆肥等の有機物施用 | 農林水産大臣が定める事業活動例：水耕栽培における化学肥料・化学農薬の使用低減 | バイオ炭の農地施用（温室効果ガス削減の取組み含む） | 生分解性マルチの利用（温室効果ガス削減の取組み含む） | プラスチック被覆肥料の代替技術の導入 | 化学肥料・化学農薬の低減を組み合わせた冬期湛水管理の実施 | 化学肥料・化学農薬の低減を組み合わせたＩＰＭの実施 | 化学肥料・化学農薬の低減を組み合わせた夏期湛水管理の実施 | 熊本県導入指針（持続性の高い農業生産方式の導入に関する指針）目標の目安：有機質資材の施用：堆肥等の投入（ｔ／１０ａ以上） | 稲ワラ・麦稈の鋤込み（ｔ／１０ａ以上） | 緑肥作物の鋤きこみ | 草生利用有機物還元 | 化学肥料の施用減少：化学肥料施用量（窒素成分 ｋｇ／１０ａ以下） | うち肥効調節型肥料技術に取り組む場合（窒素成分 ｋｇ／１０ａ以下） | 化学農薬の使用減少：化学農薬使用回数（成分使用回数 回以下） |
|---|---|---

| | 品目 | 品種 | 作型等 | 熊本県導入指針（持続性の高い農業生産方式の導入に関する指針）土づくり：堆肥等有機質資材施用技術 | 堆肥等の投入 稲ワラ・麦稈の鋤込み | 緑肥作物の鋤込み 緑肥作物利用技術 | 草生利用有機物還元 | 減化学肥料：局所施肥技術 | 肥効調節型肥料施用技術 | 有機質肥料施用技術 | 地域未利用資源の利活用促進：化学肥料に家畜ふん堆肥等を混ぜ合わせた指定混合肥料施用技術 | 下水汚泥・有害鳥獣などの地域未利用資源を活用した肥料施用技術 | 野草堆肥等の地域資源の利活用 | スマート農業等の先端技術導入による化学肥料削減 | 減農薬：温湯種子消毒技術 | 機械（物理的）除草技術 | 除草用動物利用技術 | 生物農薬（天敵）利用技術 | 対抗植物利用技術 | 抵抗性品種栽培・台木利用技術 | 抵抗性品種栽培 | 台木利用技術 | 天然物質由来農薬利用技術 | 土壌還元消毒技術 | 熱利用土壌消毒技術 | 太陽熱・蒸気土壌消毒技術 | 熱水・蒸気土壌消毒技術 | 光利用技術：反射資材利用技術 | 色彩粘着トラップ技術 | 黄色蛍光灯利用技術 | 紫外線除去フィルム利用技術 | 被覆栽培技術：雨よけ栽培技術 | トンネル栽培技術 | 防虫ネット利用技術 | 袋かけ栽培技術 | フェロモン剤利用技術 | マルチ栽培技術 | スマート農業等の先端技術導入による農薬削減 | 県基本計画に記載する技術：省エネ施設・機械等の導入：省エネ施設・機械やヒートポンプ等の導入 | 内張・外張の多層化、被覆資材利用、自動環境制御装置活用 | 加温に頼らない作型や品種への転換等新たな栽培方法等の導入：加温期間を短縮する作型や品種の転換、局所加温技術導入 | 水田での中干し期間延長や秋耕の実施 | 不耕起栽培 | 生分解性マルチの利用 | 有機物施用による土壌炭素貯留：農地へのバイオ炭施用、緑肥、堆肥等の有機物施用 | 農林水産大臣が定める事業活動例：水稲栽培における化学肥料・化学農薬の使用低減 | バイオ炭の農地施用（温室効果ガス削減の取組み含む） | 生分解性マルチの利用（温室効果ガス削減の取組み含む） | プラスチック被覆肥料の代替技術の導入 | 化学肥料・化学農薬の低減を組み合わせた冬期湛水管理の実施 | 化学肥料・化学農薬の低減を組み合わせたＩＰＭの実施 | 化学肥料・化学農薬の低減を組み合わせた | 熊本県導入指針（持続性の高い農業生産方式の導入に関する指針）目標の目安：有機質資材の施用：堆肥等の投入（ｔ／10ａ以上） | 稲ワラ・麦稈の鋤込み（ｔ／10ａ以上） | 緑肥作物の鋤きこみ | 草生利用有機物還元 | 化学肥料の施用減少：化学肥料施用量（窒素成分 ｋｇ／10ａ以下） | うち肥効調節型肥料技術に取り組む場合（窒素成分 ｋｇ／10ａ以下） | 化学農薬の使用減少：化学農薬使用回数（成分使用回数 回以下） |
|---|---|---

| | 品目 | 品種 | 作型等 | 熊本県導入指針（持続性の高い農業生産方式の導入に関する指針）土づくり：堆肥等有機質資材施用技術 | 堆肥等の投入 稲ワラ・麦稈の鋤込み | 緑肥作物の鋤込み 稲ワラ・麦稈の鋤込み | 緑肥作物の鋤込み 草生利用有機物還元 | 減化学肥料：局所施肥技術 | 肥効調節型肥料施用技術 | 有機質肥料施用技術 | 地域未利用資源の利活用促進：化学肥料に家畜ふん堆肥等を混ぜ合わせた指定混合肥料施用技術 | 下水汚泥・有害鳥獣などの地域未利用資源を活用した肥料施用技術 | 野草堆肥等の地域資源の利活用 | スマート農業等の先端技術導入による化学肥料削減 | 減農薬：温湯種子消毒技術 | 機械（物理的）除草技術 | 除草用動物利用技術 | 生物農薬（天敵）利用技術 | 対抗植物利用技術 | 抵抗性品種栽培・台木利用技術 | 抵抗性品種栽培 | 台木利用技術 | 天然物質由来農薬利用技術 | 土壌還元消毒技術 | 熱利用土壌消毒技術 | 太陽熱・蒸気土壌消毒技術 | 熱水・蒸気土壌消毒技術 | 光利用技術：反射資材利用技術 | 色彩粘着トラップ技術 | 黄色蛍光灯利用技術 | 紫外線除去フィルム利用技術 | 被覆栽培技術：雨よけ栽培技術 | トンネル栽培技術 | 防虫ネット利用技術 | 袋かけ栽培技術 | フェロモン剤利用技術 | マルチ栽培技術 | スマート農業等の先端技術導入による農薬削減 | 県基本計画に記載する技術：省エネ施設・機械等の導入：省エネ施設・機械やヒートポンプ等の導入 | 内張・外張の多層化、被覆資材利用、自動環境制御装置活用 | 加温に頼らない作型や品種への転換等新たな栽培方法等の導入 | 加温期間を短縮する作型や品種の転換、局所加温技術導入 | 水田での中干し期間延長や秋耕の実施 | 不耕起栽培 | 生分解性マルチの利用 | 有機物施用による土壌炭素貯留 | 農地へのバイオ炭施用、緑肥、堆肥等の有機物施用 | 農林水産大臣が定める事業活動例：水耕栽培における化学肥料・化学農薬の使用低減 | バイオ炭の農地施用（温室効果ガス削減の取組み含む） | 生分解性マルチの利用（温室効果ガス削減の取組み含む） | プラスチック被覆肥料の代替技術の導入 | 化学肥料・化学農薬の低減を組み合わせた冬期湛水管理の実施 | 化学肥料・化学農薬の低減を組み合わせたＩＰＭの実施 | 化学肥料・化学農薬の低減を組み合わせた | 熊本県導入指針（持続性の高い農業生産方式の導入に関する指針）目標の目安：有機質資材の施用：堆肥等の投入（ｔ／10ａ以上） | 稲ワラ・麦稈の鋤込み（ｔ／10ａ以上） | 緑肥作物の鋤きこみ | 草生利用有機物還元 | 化学肥料の施用減少：化学肥料施用量（窒素成分 ｋｇ／10ａ以下） | うち肥効調節型肥料技術に取り組む場合（窒素成分 ｋｇ／10ａ以下） | 化学農薬の使用減少：化学農薬使用回数（成分使用回数 回以下） |
|---|---|---